



資料

スマホ（SNS、ゲーム、インターネット） との上手な付き合い方

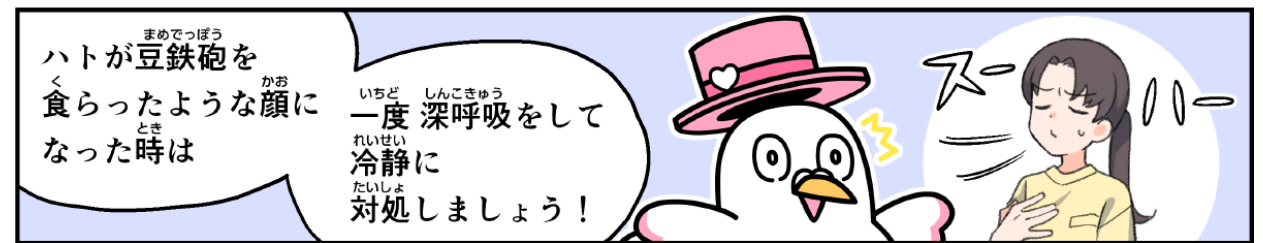
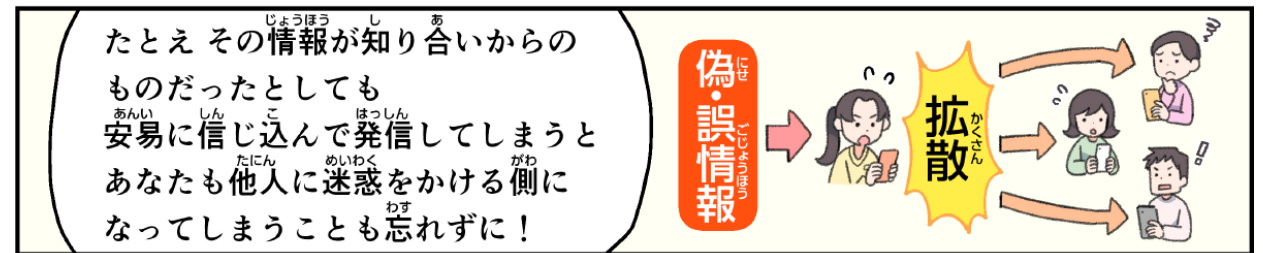
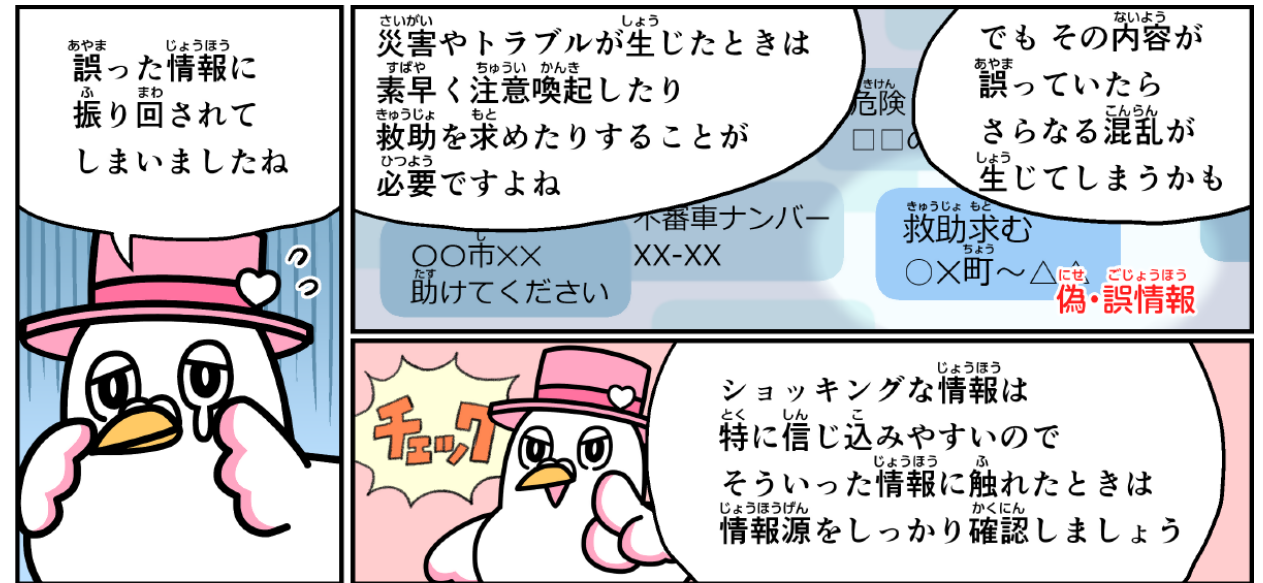
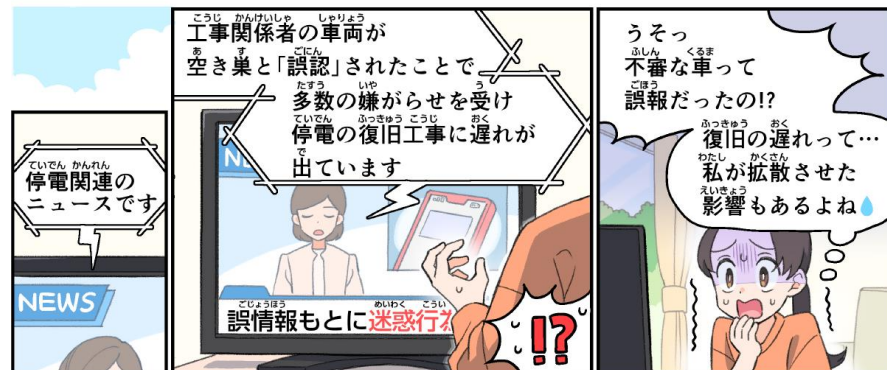
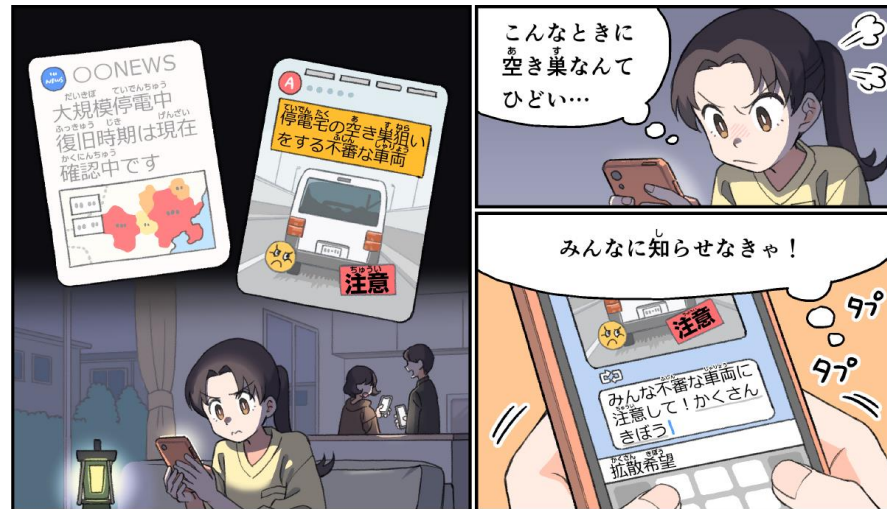
サブテーマ③「ネット上のフェイクニュース・ディープフェイク・生成AIポルノ」

令和 7 年 7 月 27 日

神奈川県福祉子どもみらい局青少年課



1 ネット上のフェイクニュース（ケース1）



1 ネット上のフェイクニュース（ケース1）

／ 考えてみよう ／

災害時には、多くの誤った情報が流通・拡散し、迅速・円滑な救助の妨げになり、救助が必要な人に届かない場合なども。ウワサやデマなど偽・誤情報に振り回されて失敗しないためには、どうしたらいいでしょう？

A

まずは深呼吸、冷静になる

災害時に危険を伝える情報を見たら誰もが慌てます。知らせる・広める前に一度落ち着きましょう。



B

表現の自由と他人や社会への危害

表現の自由はありますが、個人や社会に重大な危害を及ぼす投稿は犯罪や権利侵害、SNS利用規約違反になる場合も。



C

騙されないためには？

真偽の不確かな情報は、安易に拡散せず、公的機関の情報、報道やファクトチェック団体などを確認！



1 ネット上のフェイクニュース（ケース1）

＼ もっと詳しく ／

情報の再投稿やシェアの前には必ず以下の確認を！

文章や画像・映像はもちろん、Web作成やプログラミングなどまでできてしまう「生成AI」。急速な発展と普及により、一気に利用者が拡大しました。残念ながらAIの技術は悪用されることもあり、偽・誤情報をさらに見分けにくくしています。特に、音声・映像を加工した動画やチャットはだまされやすく、注意が必要です。

ネット上の情報は誰もが気軽に発信できることから、事実か否かを見抜く力が重要です。デマ情報の拡散は、誰かに多大な迷惑をかけるだけでなく、自分自身が危険な目にあうきっかけにもなります。ネットを楽しむ際は疑わしい情報に惑わされないよう、少しでも気になったら以下のチェックを実施しましょう。



1 ネット上のフェイクニュース（ケース1）

まずは以下をチェック！

情報源はある？

- ✓ その情報はどこから、いつ発信されたものですか？
- ✓ 根拠となるモノ・コトは今も存在していますか？
- ✓ 情報源が「海外の」ニュースや論文の場合、☒あなたはその情報源を確認、理解していますか？

その分野の専門家？信頼できる人？

- ✓ その情報は、専門知識や必要な資格を持った人が、☒責任を持って発信しているものですか？
- ✓ その人は過去に、偽情報や誤情報を発信して☒批判されたりしたことはありませんか？
- ✓ その人は関連する情報や商品を買っていませんか？

他ではどう言われている？

- ✓ その情報について、他の人や他のメディアは☒どのように言っていますか？
- ✓ その人の意見に反論している人はいませんか？
- ✓ 別の内容で報じているメディアや、誤りであることを指摘しているメディアや投稿はありませんか？

生成AIのある時代、その画像は本物？

- ✓ 動画や映像だから？臨場感があるから？☒それだけで「本当」だと判断して大丈夫ですか？
- ✓ 画像検索をしたら、同じものがヒットしませんか？
- ✓ 過去に撮影された全く無関係のものや、それらを☒元にAIによって生成されたものではありませんか？

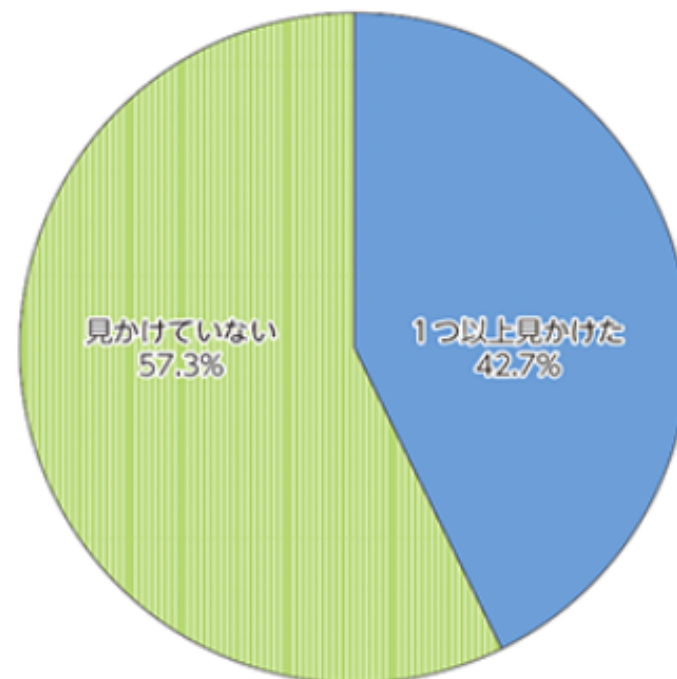
1 ネット上のフェイクニュース（ケース1）

(3) 真偽不確かな情報との接触

X(旧Twitter)等のSNSは、若年層を中心に震災時の安否確認や情報収集に一定程度寄与した一方、こうしたSNS上では、真偽不確かな情報が拡散し、混乱をもたらした。

こうした真偽不確かな情報について、SNS上で1つ以上「見かけた」と回答した者の割合は42.7%であり、SNSの種類別にみると、X(旧Twitter)の割合が高くなっている。

図表 I-2-1-12 SNS上で真偽不確かな情報を見かけた割合



(出典)総務省(2024)国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究

1 ネット上のフェイクニュース（ケース1）

次に、見かけた情報の確からしさについてどう感じたかを尋ねてみると、「真偽がわからないと感じた」と回答した割合は各項目で概ね6.5割程度であり、さらにそのうち、「確認しようとした」割合は約3～4割となっていた。

また、実際に真偽の確認を行った者に確認方法を尋ねたところ、「情報の発信源（組織や人物）を確認した」割合が最も高く（37.6%）、公的な情報、報道機関等による情報を確認した割合はそれぞれ約3割となっていた。

図表 I-2-1-14 真偽不確かな情報をどのように確認したか



こうした情報について1つ以上見かけたと回答した者のうち、1つ以上を「知人へ共有、または不特定多数の人へ拡散したことがある」と回答した者は25.5%であり、その理由としては、「他の人にとって役に立つ情報だと思った」、「その情報が興味深かった」、「その情報が間違っている可能性がある」と注意喚起をしようと思った」といった回答が一定の割合挙げられた。

1 ネット上のフェイクニュース（ケース1）

「ライオン放たれた」ほかネット偽情報135件 熊本地震で警察記録

飯島健太 2025年1月12日 10時00分



[list](#)



ツイッターに投稿されたライオンの画像＝熊本県警提供 

最大震度7を2回観測した2016年の熊本地震で、熊本県警が把握したインターネット上の「流言飛語」が135件に上っていたことが分かった。朝日新聞の情報公開請求に対し、開示された文書に記録されていた。

熊本地震は16年4月14日に前震、同16日に本震が発生した。文書によると、ネット上では地震後、デマや真偽の不確かな情報が見られた。県警は、被災者の不安や混乱があおられる懸念から「情報対策」に取り組んだという。

その結果、県警は5月8日までに計135件の流言飛語を把握した。主な例に「モールで火災」「動物園からライオンが放たれた」「井戸に毒」「富士山の大噴火が起こる」「迷彩服を着たグループが空き巣」「謎の放射線」などがあつた。

[PR]

このうち、ツイッター（現X）に「ライオンが放たれた」とウソの投稿をして熊本市動物園の業務を妨害したとして、県警は7月、当時20歳の男性を偽計業務妨害の疑いで逮捕した。男性はその後、不起訴処分（起訴猶予）になった。

熊本地震の際に、「ライオンが放たれた」とウソの投稿をして逮捕された事例

2 ディープフェイク（ケース2）

ディープフェイク

AI（人工知能）の深層学習であるディープラーニングと、偽物のフェイクを組み合わせた造語です。ディープフェイクとは、AI技術を活用した合成メディアともいえます。

静止画の顔を切り抜いて動画に当てはめるといった従来の方法ではなく、ディープフェイクではフェイスマップ（顔交換）というAI技術を活用しています。ベースとなる動画の人物の表情と連動して顔のパーツが動くため、本物のように見えるのが大きな特徴です。著名人の顔を別の顔に合成する、実際にはやっていない動作をする、実際は口にしていない言葉を発言させるなど、偽の動画や写真をディープフェイクで作ることが可能です。

ディープフェイクが注目されたのは、2017年末にアダルト動画の人物と著名人の顔を合成したフェイクポルノがアメリカで公開されたことからです。ディープフェイクのアルゴリズムがコード共有のプラットフォームで公開されたのを機に、誰でもノウハウや技術を習得できるようになりました。

ディープフェイクはエンターテインメントの分野で活用されていますが、問題は技術の悪用です。虚偽の情報を流すフェイクニュース、リベンジポルノなども作成できるため、名誉毀損や著作権侵害だけでなく、政治や経済、社会情勢にも悪影響をおよぼす危険性があります。

2 ディープフェイク（ケース2）

図表2-3-1-2 最近のディープフェイクの事例

年	エリア	内容
2021	米国	・娘が所属するチアリーディングのチームメイトをチームから追い出すため、母親がディープフェイク技術を使い、チームメイトのわいせつな画像や動画を作成したとして、逮捕された
	欧州	・ロシアの議員のディープフェイク動画と気づかずに欧州の議員がビデオ電話会議を実施した
2022	世界	・ゼレンスキー大統領がロシアへの降伏について話をする動画がYouTubeに投稿された
	日本	・「Stable Diffusion」が静岡県台風洪水デマ画像作成に使われ、Twitter上に投稿された
	米国	・画像生成AI「NovelAI Diffusion」が、他者の著作物を無断転載している可能性のあるサイト「Danbooru」の画像をAI学習に用いていた
	英国	・合意のないディープフェイクポルノへの反対活動を行う女性のポルノビデオが作成され、Twitter上で公開されていた
2023	米国	・政治活動家が、バイデン大統領が第三次世界大戦の開始を告げる動画を作成。作成者はAIで作成した旨を説明したが、多くの人が説明をつけないまま動画を共有した
	米国	・ベリングキャットの創設者が、トランプ前大統領が逮捕される偽画像を「Midjourney」を使用して作成・公表し、Twitter上で拡散された

（出典）各種ウェブサイトを基に作成

2 ディープフェイク（ケース2）

A I 使い「静岡水害」とデマ画像、5600件以上拡散... 投稿者は生成認める

2022/09/27 20:16

保存して後で読む f X B!

台風15号に関連し、静岡県内で住宅が水没したとする偽の画像がツイッター上で拡散していることが、同県への取材でわかった。



ツイッター上に拡散された偽画像



[PR]

偽画像が投稿されたのは26日未明で、「ドローンで撮影された静岡県の水害。マジで悲惨すぎる...」とのコメントが添えられていた。27日午後6時時点で、5600件以上リツイートされた。

画像には、直線のはずの建物の屋根がゆがんでいるなど不自然な点があった。その後、投稿者はA I（人工知能）で画像を生成したことを認めたうえで、「申し訳ありませんでした」と書き込んだ。

この問題を受け、松野官房長官は27日の記者会見で、「流言飛語による社会的混乱を防止することは重要だ。政府としても、事実に基づかない情報に注意喚起するよう呼びかけていく」と話した。

坂本旬・法政大教授（メディア情報教育学）は、「災害時は、情報を求める心理からデマが

静岡の水害の際に、AIを使用した画像を生成し、デマを流して拡散された事例

Kanagawa Pref 広がりやすい。安易に拡散しないことが大事だ」と指摘している。

出典：読売新聞 2022年9月27日

2 ディープフェイク（ケース2）

現時点では、こうしたディープフェイクの動画には不完全なものも多く、以下のような特徴があります。

- ▽イントネーションがおかしい
- ▽漢字や数字の読み方などを間違えている
- ▽顔全体の動きが合っていない
- ▽画質が荒い



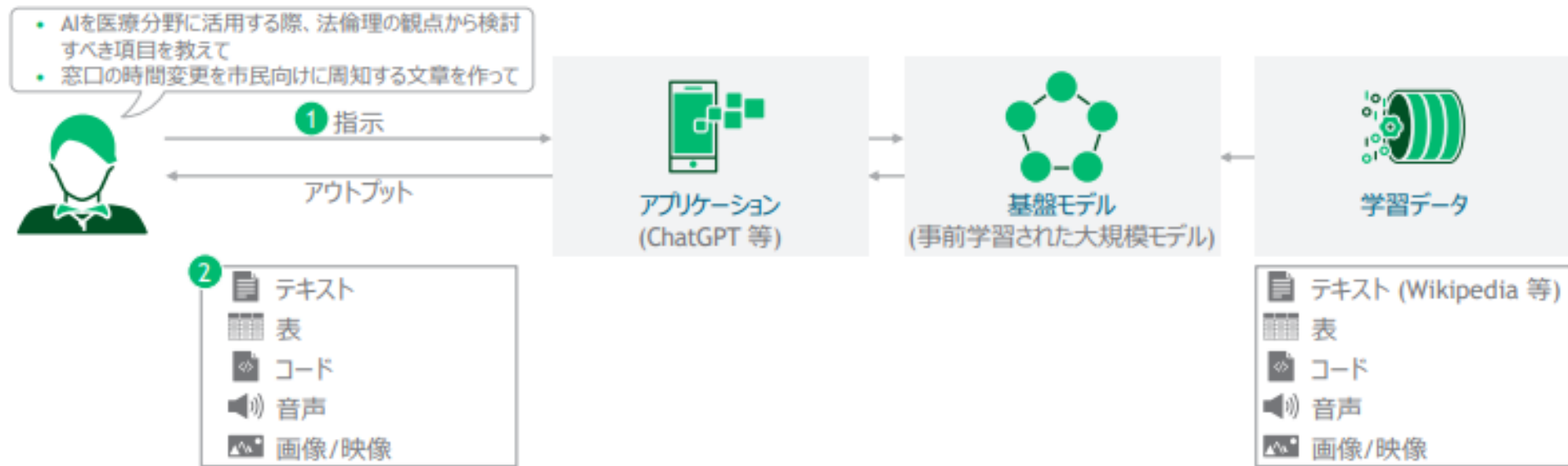
“だまされない”ためにできる4つのこと

- ▽SNSなどで広がる動画を安易に信じない
- ▽動画を広めたアカウントのほかの投稿を見る
- ▽投稿へのコメント欄などで指摘されていないか見る
- ▽動画に出てくる人物が実際に発言したのか、信頼できるメディアの記事や行政機関の情報などで調べてみる

岸田首相（当時）のディープフェイク動画
が拡散された事例

3 生成AIポルノ（ケース3）

図表 I -3-1-3 生成AIの概要



① 自然な言語で簡単に指示が出せる (ユーザー側での調整や学習なしに汎用的な活用が可能)

② 様々な形式のアウトプットを取得できる (テキスト/表/コード/音声/画像/映像)

(出典) ポストン コンサルティング グループ Bommasani et al. "On the Opportunities and Risks of Foundation Models," Center for Research on Foundation Models, 2021 を基に分析

3 生成AIポルノ（ケース3）

図表 I -3-1-4 主な生成AIサービスの種類と機能

主なサービス	できること
言語生成 AI	
ChatGPT/GPT-4 (OpenAI) Bard (Google) Bing Chat (Microsoft) Copilot (Microsoft)	・ 質問、要約、計算、言い換え、翻訳、知識発見等 ・ 検索と組み合わせた対話的な文章生成 ・ プログラミングの補助 等
動画生成 AI	
StableDiffusion Midjourney Adobe Firefly Gen-2	・ 画像生成、画像の一部編集、画像の自動彩色、線画抽出 ・ 動画生成
音生成 AI	
MusicGen Synthesizer V So-Vits-SVC	・ 音楽、効果音の生成 ・ 歌声生成 ・ 声の変換、声の言語変換
その他	
—	・ 3Dオブジェクトの生成 ・ 分子構造の生成 等

（出典）各種公開資料を基に作成

3 生成AIポルノ（ケース3）



芸能人の偽の性的画像 メルカリなどで大量販売 対策求める声

2024年12月14日 16時46分

AIを使って、本物と見分けがつかないほど巧みな偽の画像や動画を作るディープフェイク。この技術を使って、芸能人の顔を合成したとみられる性的な画像がフリマアプリ大手「メルカリ」などで大量に販売されていることが分かりました。

芸能事務所などで作る団体からは、対策の強化を求める声が出ています。

Kanagawa Prefectural Government

約100人 偽の性的画像が...



「メルカリ」では、芸能人の顔を合成した下着姿などの性的な偽の画像が数百円から数千円で販売されています。NHKがことし8月から今月にかけての出品状況を確認したところ、俳優や歌手、アイドルなど少なくともおよそ100人、のべ1000点以上の偽画像が掲載されていました。

画像は「ディープフェイク」と呼ばれるAIを使った技術で作られているとみられ、説明欄に服を脱がす加工をするなどと記載しているものも多くあり、一部は販売済みとなっていました。

また、数は少ないものの、同様の性的な偽画像の販売はマネット通販「アマゾン」、マオークションサイト「ヤフオク!」、マフリマアプリ「楽天ラクマ」でも確認されました。

出典：NHKホームページ 2024年12月14日

3 生成AIポルノ（ケース3）



生成AIで作成のわいせつ画像 販売した疑い 4人逮捕 全国初摘発

2025年4月15日 19時45分 生成AI・人工知能

生成AIを使って作成したわいせつな画像をインターネットのオークションサイトで販売したとして、警視庁は20代から50代の4人を逮捕しました。作成されたのは実在しない成人女性の画像で、警視庁によりますと、生成AIで作成したわいせつ物の販売が摘発されるのは全国で初めてだということです。

逮捕されたのは、愛知県に住む小売業の水谷智浩容疑者（44）や、埼玉県に住む会社員の菅沼貴司容疑者（53）ら20代から50代の合わせて4人です。

警視庁によりますと、4人はそれぞれ去年10月、生成AIを使って作成した女性のわいせつな画像をポスターにして、インターネットのオークションサイトで複数回販売した疑いが持たれています。

無料で提供されている生成AIのソフトに、ネット上にある大量の画像を学習させたうえで、「脚を開く」などとポーズを指示することで、実在しない成人女性の裸に見える画像を作成していたとみられています。

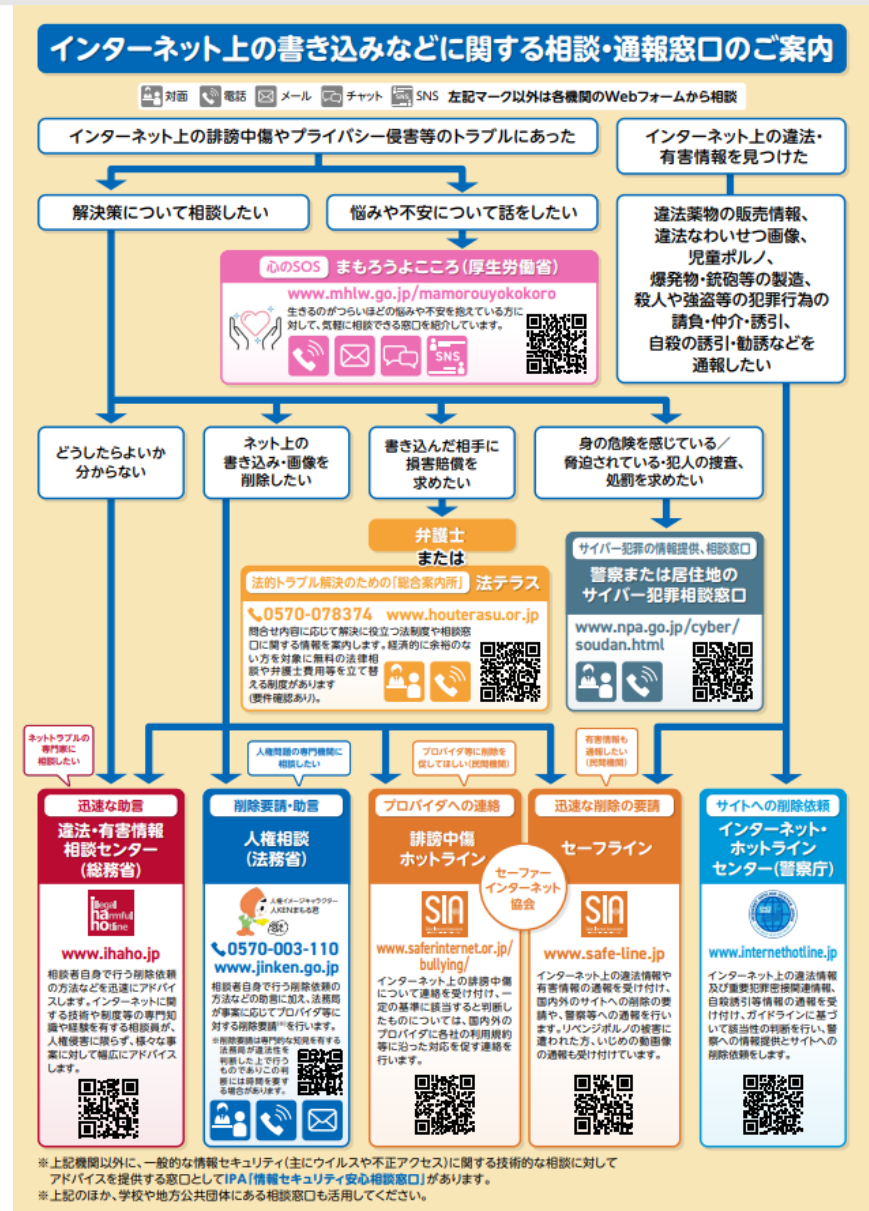
ポスターは、「AI美女」などとうたって1枚数千円で販売され、水谷容疑者は、およそ1年間で1000万円余りを売り上げていたということです。

調べに対し、いずれも行為を認め、このうち水谷容疑者は、「ポスター販売は利益率が高いと知って始めた」などと供述し、菅沼容疑者は、「ポスター販売を事業の1つにしよう」と思い、作成方法は独学で学んだ」などと供述しているということです。

「ディープフェイク」と呼ばれるAIを使った技術で作成した実在する人物や架空の人物の性的な画像がネット上に氾濫しているとして課題となっていますが、警視庁によりますと、生成AIで作成したわいせつ物の販売が摘発されるのは全国で初めてだということです。

AIを使用したわいせつ画像（無修正）を生成し、販売が摘発された初事例

生成AIポルノ等の被害にあったら



生成AIポルノ等の被害にあったら

性犯罪・性暴力の被害にあったら

性犯罪・性暴力の被害にあった場合の相談窓口



 **かならいん公式**

- かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター「かならいん」は、性犯罪・性暴力の被害にあわれたあなたをサポートします。ひとりで悩まず、まずは「かならいん」にご相談ください。（外部委託）（所属：[くらし安全交通課](#)）

まずは「かならいん」へご相談ください

[かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター「かならいん」](#)では、性別・年齢等問わず、性犯罪・性暴力の被害にあわれた方やそのご家族からのご相談をお受けしています。

電話相談 **#8891**（はやくワンストップ）

24時間365日いつでも電話相談を受け付けています。

#8891（はやくワンストップ）は、発信場所から最寄りのワンストップ支援センターにつながる通話料無料の全国共通番号です。（NTTひかり電話からは、0120-8891-77（通話料無料））

全国共通番号は、一部のIP電話等からはつながりません。その際は、**045-322-7379**（通話料がかかります）へお電話ください。

男性及びLGBTs被害者のための専門相談ダイヤル

045-548-5666（毎週火曜日16時から20時 祝休日・年末年始を除く）

// 相談受付時間

毎週 火曜日・木曜日・金曜日・日曜日

16時～21時



インターネット利用に関するルール

ルールを作るときのポイント

- Point1 ▶ 「ルールがトラブルから自分自身を守ってくれる」
ことをきちんと伝える
- Point2 ▶ お互いに納得できるよう、話し合って作る
- Point3 ▶ 子供が守れるルールを作る
- Point4 ▶ 具体的なルールを作る
- Point5 ▶ 守れなかったらどうするか決めておく
- Point6 ▶ トラブルがあったら保護者に相談するよう決めておく